

カスミザクラの開花特性

脇田陽一*・佐藤孝夫*・滝谷美香*

Bloom characteristic of Kasumizakura (*Prunus verecunda* Koehne)

Yoichi WAKITA*, Takao SATOH* and Mika TAKIYA*

要 旨

カスミザクラは、道内では日高地方を中心に自生しているサクラで、公園などにもまれに植栽されているが、その特性はあまり知られていない。そこで、カスミザクラの開花特性について、2000年から2002年の3年間にわたり調査した。その結果、カスミザクラは、エゾヤマザクラに比べ、開花初日、満開日ともに2週間ほど遅く、エゾヤマザクラが落花し、葉ザクラになった頃に満開を迎えていることが明らかになった。また、カスミザクラの開花期間については、エゾヤマザクラと同様に、1～2週間程度で、最大開花数についても、個体間で著しい違いがあるものの、前年開花数が多いと、当年さらには翌年も多く、少ないものは少ないといった傾向が認められた。

さらに、開花特性調査の結果から、開花時期が非常に早い個体あるいは遅い個体、開花期間が非常に長い個体、開花数が3年通して多い個体等、緑化樹として観賞価値の高い優良個体19個体を選抜することができた。

キーワード：カスミザクラ、エゾヤマザクラ、開花特性

はじめに

本州では、開花時期や花の形態などの異なる様々な品種のサクラが開発・利用されているが、北海道においては本州で品種改良されたサクラは、気象条件などの違いから植栽適地が限られるため、北海道自生のサクラを用いた、より多様なサクラの品種開発が望まれている。

一方、北海道に自生し、緑化樹として植栽されている代表的なサクラ類にはエゾヤマザクラ、チシマザクラ、カスミザクラがあるが、そのうち実際に植栽されているのはエゾヤマザクラがほとんどで、根室地方を中心にチシマザクラがわずかに植えられているにすぎない。また、カスミザクラは、日高地方を中心に自生しており、北海道で最も広く植えられているエゾヤマザクラに混じって、公園などにまれに植栽されている。カスミザクラは、エゾヤマザクラに比べると花色が薄く、花柄が途中から分かれ、若枝や葉の両面に軟毛が散生しているなどの形態的な特徴を持つが、その特性はあまり知られていない。これまで筆者らは、エゾヤマザクラとチシマザクラの開花特性について調査し、特徴のある個体の選抜を行ってきた（佐藤ほか1991, 1993a,b）。また、これらの樹種の選抜個体について、組織培養による増殖法を確立してきた（佐藤1994, 1999）。しかし、カスミザクラについては、組織培養に関する報告はあるものの（佐々木1997）、開花に関する報告はほとんどない。そこで、カスミザクラの開花特性を明らかにするため、道内各地から種子を採取してカスミザクラの苗木を養成し、1996年春に北海道立林業試験場三笠遺伝資源集植地に試験地

* 北海道立林業試験場 Hokkaido Forestry Research Institute, Bibai, Hokkaido 079-0198

[北海道林業試験場研究報告 第41号 平成16年3月, Bulletin of the Hokkaido Forestry Research Institute, No.41, March 2004]

を造成した。

本研究は、北海道に自生するカスミザクラの開花特性を明らかにするとともに、より鑑賞価値の高い優良個体を選抜することを目的として行った。

材料および方法

1 江別市 JR 大麻駅付近での調査

カスミザクラ (*Prunus verecunda* Koehne) の開花量の推移を明らかにするため、江別市 JR 大麻駅付近の植栽木について、開花率を調査し、エゾヤマザクラ (*Prunus sargentii* Rehder) と比較した。開花率とは、満開の状態を 100 として、開花の割合をパーセント (%) で表したものである。2000 年は 33 本、2001 年と 2002 年は 73 本の植栽木について、開花率を調査するとともに、花色の違い等についても観察した。

2 三笠遺伝資源集植地での調査

1990 年、様似 (アポイ岳ふもと)、えりも、栗山の天然木、および足寄、岩見沢、浦河の植栽木、計 6 地区からタネを採取し、1996 年春に前述の三笠遺伝資源集植地に試験地を造成した。この資源集植地に植栽してある合計 21 家系、樹齢約 10 年生のカスミザクラおよびエゾヤマザクラ、総数 136 本を調査の対象とした。

開花状況については、2000 年、2001 年、2002 年の 3 年間、花の咲き初めから花が全て散るまで、以下の 4 項目、(1) 開花初日：完全に展開した花が初めて観察された日、(2) 満開日：開花数が最大となった日、(3) 開花期間：咲き初めから花が全て散るまでの期間、(4) 最大開花数について調査を行った。

結果および考察

1 江別市 JR 大麻駅付近での調査

2000 年、33 本の植栽木について調査した結果を図-1 に示す。開花率が最大になった日はエゾヤマザクラが 5 月 12 日～16 日、カスミザクラが 5 月 22 日であり、カスミザクラのほうが 6～10 日間遅かった。また、2001 年については、開花率が最大になった日はエゾヤマザクラが 5 月 7 日～11 日、カスミザクラが 5 月 16 日～18 日であり、カスミザクラのほうが 5～11 日間遅かった (図-2)。さらに、2002 年については、開花率が最大になった日はエゾヤマザクラが 4 月 26 日～5 月 1 日、カスミザクラが 5 月 6 日～11 日であり、カスミザクラのほうが 5～15 日間遅かった (図-3)。3 年間通してカスミザクラは、エゾヤマザクラに比べ満開日が 10 日ほど遅く、エゾヤマザクラが落花し、葉ザクラになった頃に、満開を迎えていた。カスミザクラとエゾヤマザクラが混植さ

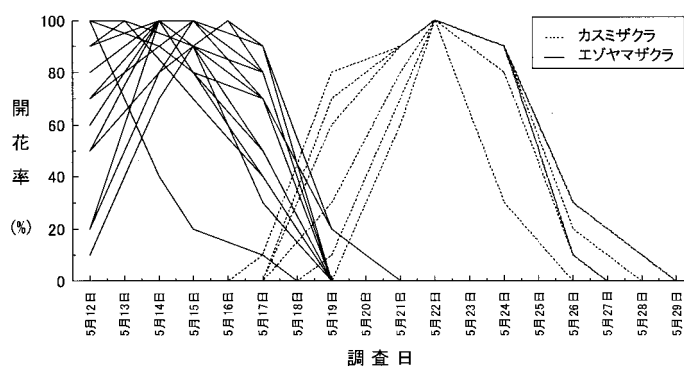


図-1 2000 年のカスミザクラとエゾヤマザクラの開花状況の比較 (江別市)

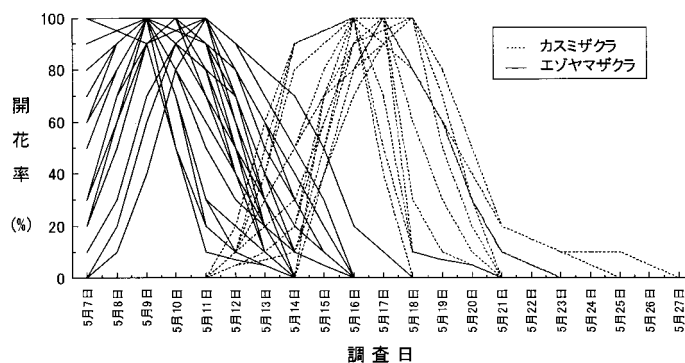


図-2 2001 年のカスミザクラとエゾヤマザクラの開花状況の比較 (江別市)

れている場所では、花のピークが2度あり、お互いの開花期間が重複し、連続して花が咲き続けていることから、長い期間サクラの花を観賞することが可能であった。

カスミザクラの花色観察の結果、白いものからピンクを呈するものまで、個体によってさまざまであった。また、開花初めは白く、だんだん赤みを帯びていくような、花色が変化していく個体も認められた。

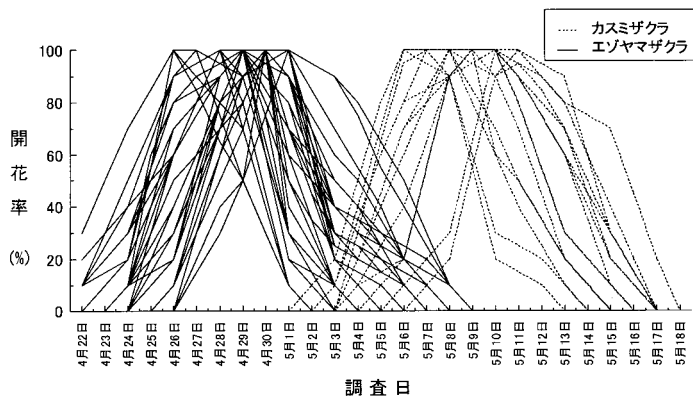


図-3 2002年のカスミザクラとエゾヤマザクラの開花状況の比較(江別市)

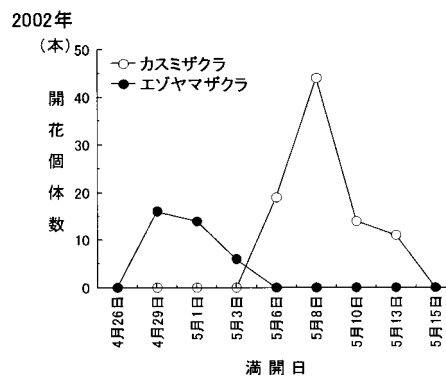
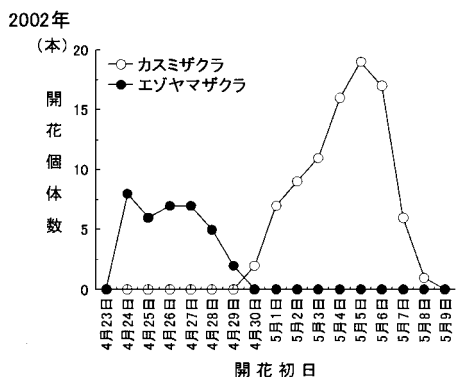
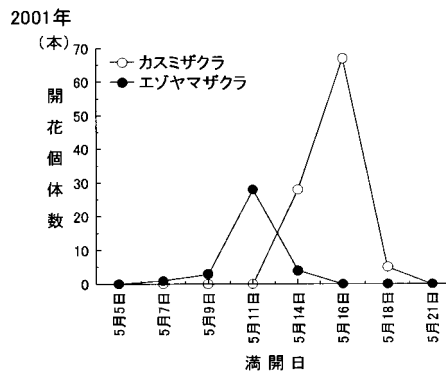
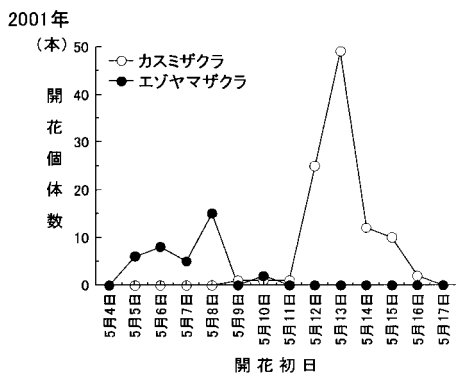
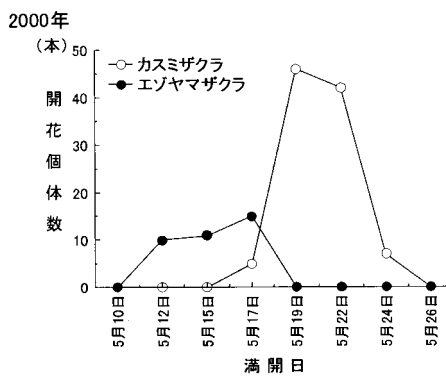
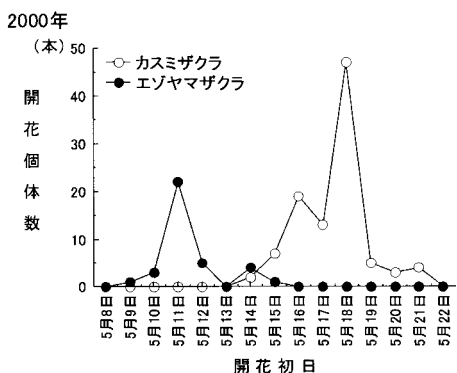


図-4 開花初日別の開花個体数

図-5 満開日別の個体数

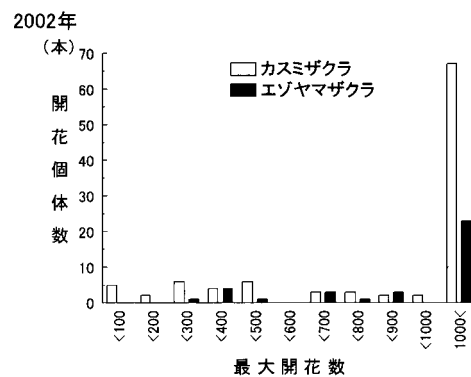
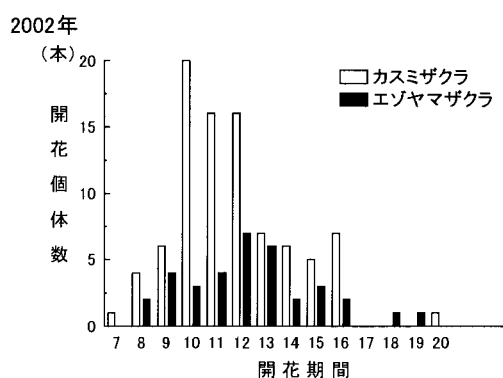
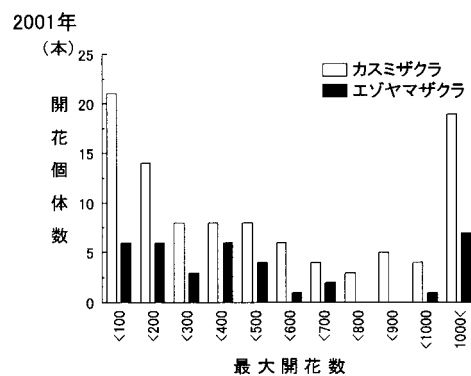
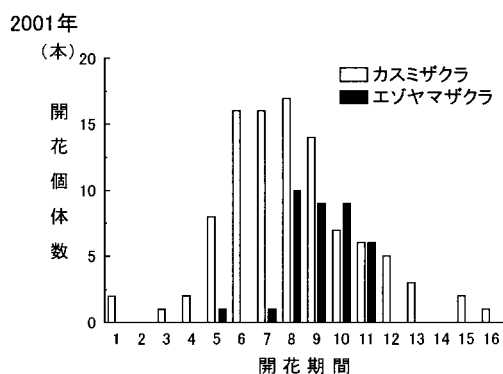
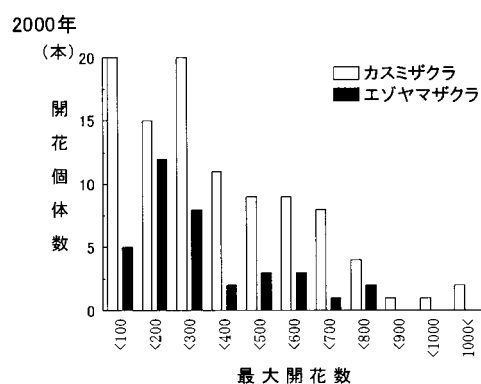
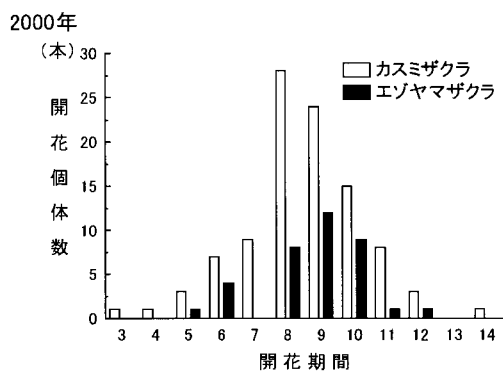


図-6 開花期間の個体数

図-7 最大開花数別の個体数

2 三笠遺伝資源集植地での調査

(1) 開花初日

開花初日の結果を図-4に示す。2000年の開花初日は、5月9日～5月21日であり、早いものと遅いものでは13日間の差があった。2001年については、5月5日～5月16日で、12日間の差があった。また、2002年についても4月24日～5月8日で、早いものと遅いもので15日間の差があった。3年間通して、早いものと遅いもので、2週間ほどの差があった。そのうち開花が早いものがエゾヤマザクラで、遅いものがカスミザクラであった。また、カスミザクラとエゾヤマザクラでは、開花日に1週間程度の明らかな差が認められた。

(2) 満開日

満開日の結果を図-5に示す。2000年の満開日は、5月12日～5月24日、2001年は5月7日～5月18日、2002年が4月29日～5月13日であり、早いものと遅いものでは12～15日間の差があった。カスミ

ザクラとエゾヤマザクラの間では、開花期間が重なるものの、ピーク期に1週間ほどの違いが認められた。

(3) 開花期間

開花期間の違いの結果を図-6に示す。開花した個体の開花期間は、2000年では3～14日間、2001年では1～16日間、2002年では7～20日間であった。カスミザクラにおける開花期間の平均は、2000年が8.6日、2001年が8.0日、2002年が11.7日であった。エゾヤマザクラについては2000年の平均が8.7日、2001年が9.1日、2002年が12.3日であり、カスミザクラとエゾヤマザクラの間に大きな違いは認められなかった。

(4) 最大開花数

個体当りの最大開花数の頻度分布を図-7に示す。2000年のカスミザクラの最大開花数は、11～1,036個で、個体によって大きな違いが認められた。そのうち、1,000個以上開花した個体は2本であった。エゾヤマザクラについては54～773個であり、1,000個以上開花した個体は認められなかった。2001年は、カスミザクラが2～5,672個で、1,000個以上開花した個体は、前年の2本に比べ19本に増加していた。エゾヤマザクラについては12～1,420個で、1,000個以上開花した個体は、前年の0本から7本に増加していた。さらに2002年は、カスミザクラは6～6,805個で、1,000個以上開花した個体は、前年の19本に比べ67本に増加した。エゾヤマザクラについては267～8,028個で、1,000個以上開花した個体は前年の7本に比べ23本に増加した。個体によって開花数に著しい違いが認められたが、カスミザクラとエゾヤマザクラの間に大きな違いは認められなかった。

また、樹高4m以上(4m～5.2m)のカスミザクラ56個体について、2年ごとの最大開花数を比較したところ、2000年の開花数が少ないと、次の年の2001年も、またその次の年の2002年も開花数が少なく、多いものは多いといった傾向が認められた(図-8)。このことから、3年連続して花の多い個体は、将来的にも花が多いことが期待される。

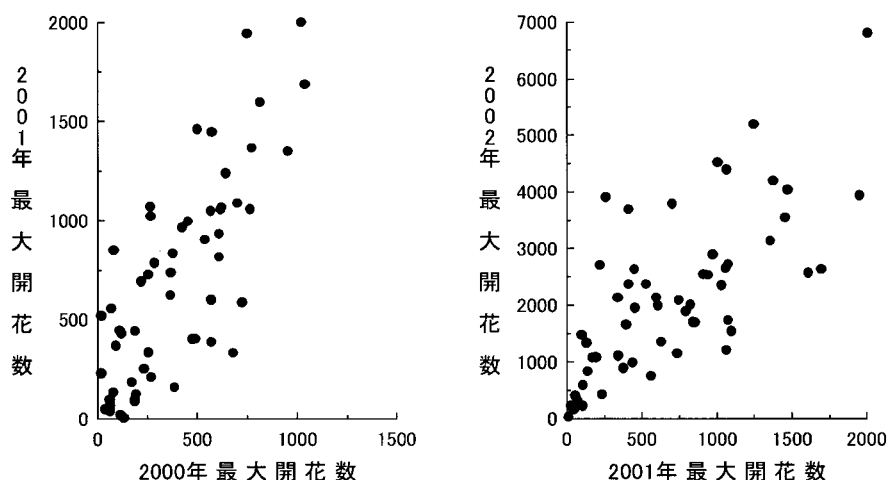


図-8 カスミザクラ(樹高4m以上)における2年間の開花数の比較

3 優良個体の選抜

カスミザクラの開花特性調査から、緑化樹として観賞価値の高い優良個体と思われる候補木を選抜した(表-1)。

優良個体候補木として、江別市JR大麻駅周辺の植栽木から、花色が他と異なる等、付加価値が高いと思われる9個体を選抜した。さらに、三笠遺伝資源集植地での開花初日の調査からは、開花日が安定して早い2個体、および遅い2個体を選抜した。また、三笠遺伝資源集植地での開花期間の調査からは、安定して開花期間が長い3個体を選抜した。最大開花数の調査からは、3年連続して多くの花をつける3個体を選抜した。これら19系統の選抜個体については、優良な特性の安定性について、今後さらに継続して調査していく必要がある。

表-1 カスミザクラの選抜優良個体

No.	個体番号	特 徴	植栽場所	種子の産地
1	A-09	花着きが非常に良い	JR 大塚駅付近	
2	A-11	花着きが非常に良い	JR 大塚駅付近	
3	A-16	花着きが非常に良い	JR 大塚駅付近	
4	C-04	花がピンク色	JR 大塚駅付近	
5	C-13	花がピンク色	JR 大塚駅付近	
6	A-20	花が濃いピンク色	JR 大塚駅付近	
7	A-06	花が濃いピンク色で、葉が少ない	JR 大塚駅付近	
8	A-17	初め白色の花が咲き、後にピンク色に変わっていく	JR 大塚駅付近	
9	B-26	初めピンク色の花が咲き、後に白色に変わっていく	JR 大塚駅付近	
10	足 6-5	開花が3年連続して早い	三笠試験地	足寄 (植栽木)
11	栗 2-4	開花が3年連続して早い	三笠試験地	栗山 (天然木)
12	栗 3-6	開花が3年連続して遅い	三笠試験地	栗山 (天然木)
13	栗 3-8	開花が3年連続して遅い	三笠試験地	栗山 (天然木)
14	足 5-9	開花期間が3年連続して長い	三笠試験地	足寄 (植栽木)
15	浦 4-5	開花期間が3年連続して長い	三笠試験地	浦河 (植栽木)
16	栗 3-9	開花期間が3年連続して長い	三笠試験地	栗山 (天然木)
17	浦 6-6	開花量が3年連続して多い	三笠試験地	浦河 (植栽木)
18	栗 1-4	開花量が3年連続して多い	三笠試験地	栗山 (天然木)
19	栗 3-4	開花量が3年連続して多い	三笠試験地	栗山 (天然木)

おわりに

カスミザクラの開花特性調査の結果、カスミザクラはエゾヤマザクラに比べ、道央地域で開花時期が2週間程度遅いことが明らかとなった。今後、カスミザクラを計画的にエゾヤマザクラなどと混植することにより、花のピークが2度でき、お互いの開花期間も重複し、連続して花が咲き続けることから、これまでよりも長い期間サクラの花を観賞することが可能になる。

また、開花時期が非常に早い個体あるいは遅い個体、開花期間が非常に長い個体、開花数が安定して多い個体等、緑化樹として高い形質を備えた優良個体と判断される候補木が選抜できた。現在、これらの選抜候補木については、「北海道ブランド」となるような新たな品種の登録につながるよう、組織培養による増殖を行っている。

今後は、花の大きさや色変わり等についても詳しく調査し、より鑑賞価値の高い優良な個体を選抜していく必要があると思われる。

文 献

- 佐々木楊 1997 カスミザクラ組織培養プラグ苗のコストシュミレーションによる低コスト化の検討. 植物工場学会誌 9:20-28
- 佐藤孝夫 1994 茎頂培養法によるエゾヤマザクラの大量増殖. 北林試研報 31: 77-86
- 佐藤孝夫 1999 茎頂培養法によるチシマザクラ優良個体の大量増殖. 北林試研報 36: 1-9
- 佐藤孝夫・梶勝次 1993a 全道から収集したエゾヤマザクラの特性 (II) -開花特性-. 北林試研報 30: 68-73
- 佐藤孝夫・斎藤新一郎 1993b チシマザクラ実生苗の成長量と開花状況. 日林北支論 41: 226-228
- 佐藤孝夫・斎藤晶・梶勝次 1991 全道から収集したエゾヤマザクラの特性 (I) -選抜個体の成長, 樹形および開花状況-. 北林試研報 29: 33-38

Summary

Kasumizakura (*Prunus verecunda* Koehne) is a cherry tree, which grows wild centering on the Hidaka district in Hokkaido, however, the characteristic is seldom known. Therefore, we investigated for three years in 2000 to 2002 about the bloom characteristic of Kasumizakura. Consequently, compared with Ezoyamazakura (*Prunus sargentii* Rehder) currently that in Hokkaido planted, the bloom first day and full bloom day of Kasumizakura were late about two weeks. By planting Kasumizakura with Ezoyamazakura intentionally, the peak of a flower is made twice and becomes possible appreciating a period longer than before. Moreover, the flowering period of Kasumizakura was about one to two weeks like Ezoyamazakura. Furthermore, for the number of the maximum bloom, although there was a remarkable difference between individuals, the individual with many amounts of bloom had many amounts continuously for three years, and the individual with few amounts of bloom had few amounts continuously for three years.

From the result of bloom characteristic investigation, the individual with very early bloom time or the late individual, the individual with the very long flowering period, and the individual with many stably bloom etc. were able to select the 19 superior individuals with admiration value high as greenery.

Keywords: *Prunus verecunda* Koehne, *Prunus sargentii* Rehder, bloom characteristic